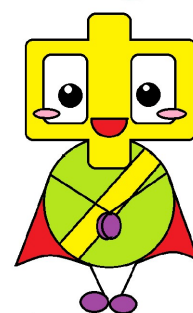
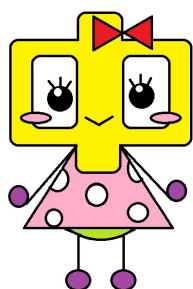


平成 30 年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



平成 30 年 12 月
海老名市立中新田小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の方は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

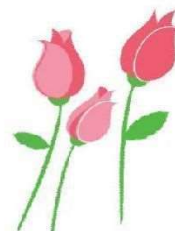
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成30年4月17日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 漢字の読み書きの正答率が全国平均に比べて高いです。書かれている内容や意味を理解し、文章の中で漢字を正しく使うことができる児童が多いです。
- 「読むこと」では、物語の登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることができます。

《努力を要する所》

- 「話すこと・聞くこと」では、相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例を挙げながら、筋道を立てて話すことに課題が見られます。
- 「読むこと」では、目的に応じて必要な情報を取り出し、中心となる語や文、段落を適切に捉えて読むことに課題が見られます。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「話すこと・聞くこと」では、計画的に話し合うための、司会の役割を捉えることができます。
- 「書くこと」では、推薦するための文章を書くには、推薦理由を明確に表現するための工夫として、他のものと比較して書くことでよさが伝わることを捉えることができます。

《努力を要する所》

- 「書くこと」では、目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考えることに課題が見られます。
- 記述式の問題では無解答率が全国平均に比べ高くなっています。自分の考えを明確にして文章にまとめようとする意欲を持つことに課題が見られます。

これまでの取組から

- 漢字の読み書きの力がついている児童が多いのは、日常的に国語辞典を利用したり、漢字の宿題で定着を図ったりしてきた成果が表れているためだと思われます。
- 特別活動等を通じて、話し合い活動を意識的に取り入れているので、司会者の役割や話し合いの進め方などが身に付いてきていると思われます。

今後の具体的な取組について

- 発表や話し合いの場面で、自分の考えを効果的に伝えられるよう、事例を挙げる・順序立てて話すなどの具体的な方法を挙げながら指導していきます。
- 文章の中から自分の考えの根拠となる一文をもとに意見を書く練習を通して、自分の考えを書いてまとめる力を付けていきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「量と測定」では、角の大きさについて、単位（度（°））と測定の意味を理解しています。また、異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解しています。
- 「数と計算」では、十進位取り記数法で表された、3桁の整数どうしの大小比較について理解しています。

《努力を要する所》

- 「量と測定」では、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の理解に課題が見られます。
- 「数と計算」では、小数の除数の意味について課題が見られます。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「図形」では、合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から条件に合う図形を選ぶことができている、全国平均に比べて正答率が高くなっています。
- 「数量関係」では、示された複数の情報を解釈し、条件に合う答えを求めていることができます。

《努力を要する所》

- 「数量関係」では、メモの情報とグラフを関連づけ、総数や変化に着目して、それを言葉や数を用いて記述することに課題が見られ、無解答率も高くなっています。また、棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することに課題が見られます。
- 「数と計算」では、折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連づけて根拠を記述することに課題が見られ、無解答率も高いです。

これまでの取組から

- デジタル教科書やICT機器を用いることで、課題を可視化して学習できるようにしています。また、具体物や半具体物（カードやおはじきなど）を用いて操作的活動を取り入れています。「量と測定」や「図形」の領域は全体的に正答率が高く、効果が現れています。

今後の具体的な取組について

- 題意を正しく読み取れず、問題で示されている場面を把握することや、意味を理解していても、記述することに課題が見られます。問題を図にしたり、自分の考えを文章にして友達に説明したりする活動を授業に取り入れ、場面のイメージを持たせられるよう取り組んでいきます。



理科に関する調査結果

《優れている所》

- 全体的に正答率が高いです。特に「主として『活用』に関する」問題の正答率が高いです。地球に関する問題では、川を流れる水のはたらきについての予想を基に、斜面に水を流したときに立てた棒がどうなるかという結果の見通しについて問われました。この問いでは自分の予想だけでなく、自分の考えと異なる他者の予想の内容も捉え、その予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通して実験を構想することが求められていました。本校は、実験結果を基に分析して考察し、内容を記述することができる児童が多いです。
- エネルギーに関する問題では、全国平均に比べて正答率が非常に高いです。乾電池で動く扇風機の電流の流れ方を対象として、回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を問われました。多くの児童が、実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善することができます。

《努力を要する所》

- 地球に関する問題では、川の上流側の天気と下流側の水位の関係について答えられない児童が多いです。複数の情報を基にして結果を考察することが難しいようです。様々な現状を整理し、多面的に分析することに課題があります。
- 粒子に関する問題は、食塩を水に溶かしたときの全体の重さについて考えるものでした。本問題は、水に溶けた食塩が視覚的に捉えることができないということから、苦手意識を持つ児童が多いようです。



これまでの取組から

- 実験に対して、不思議に感じたこと、疑問に思ったことを実験に活かし、結果の考察をくり返し行った結果、知識を適用する力が身に付いています。
- データの整理や、複数の情報を整理することに課題があります。

今後の具体的な取組について

- 一般化した規則性を導き出すために、一度の事物で見られた現象ではなく、複数の事物で見られた現象で検討することや信頼性を高めるために、実験を複数の方法で複数回行うことなどの科学的な方法を用いることができるように指導を改善します。

児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「算数の問題の解き方がわからないときは諦めずにいろいろな方法を考えますか」という質問に対し、85%以上の児童が肯定的に答えています。難しい課題にも諦めない、前向きな気持ちを持っている児童が多いようです。
- 「家で、学校の宿題をしていますか」という質問に対し、95%以上の児童が「している」と回答しています。全国平均（87.9%）を上回っていて、宿題に取り組む姿勢が評価できます。

《課題と思われる所》

- 「算数の勉強は好きですか」の質問に否定的な回答をしている児童が全国平均より、やや多いです。算数嫌いが増えないように、学校・家庭での取り組みが必要です。
- 学校での授業時間以外の平日の勉強時間を問う質問では、「1時間より少ない」と答えた児童が50%以上いました。全体で見ても、家庭での勉強時間が少ないことが分かりました。

生活について

《よかった所》

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝る、同じくらいの時刻に起きる」と答えた児童がいずれも全国平均を上回っており、早寝早起きの生活リズムが身に付いている児童が多いと思われます。
- 「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合が全国平均と比べて高く、自己肯定感を持っている児童が多いと思われます。

《課題と思われる所》

- 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と回答した児童の割合が全国平均を下回っています。回答で「わからない」と答える児童は44%で、地域でどんな活動をしているのかわからない実態があります。
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童の割合が県・全国平均よりやや低くなっています。

これまでの取組から

- 水曜日の朝自習を全校で「算数タイム」として取り組んでいます。計算問題を中心に、基礎基本の確実な習得・計算スピードの向上を目指しています。
- 「生活リズムチェックカード」を長期休み後に実施しています。自分の生活リズムについて見直す良い機会となっており、時間を意識する習慣が身に付いてきています。

今後の具体的な取組について

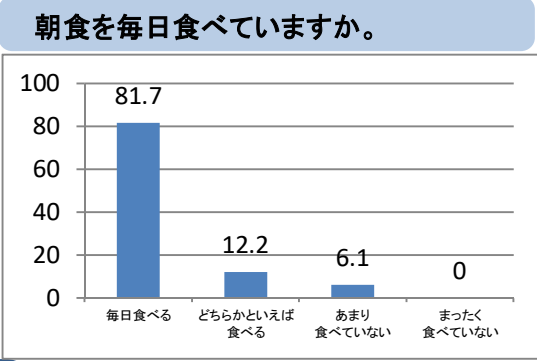
- 校内研究では、「子どもたちの心が育つ人間関係づくり」をテーマに取り組んでいます。友だちの話を最後まで聞き、考えを受け止め自分の考えを持つ態度が身に付くことを期待します。
- 学習内容の定着のために、休み時間などを利用して理解が不十分な点を補ったり、まなびっ子の利用を促したりすることで学習への理解を深めたいと考えています。



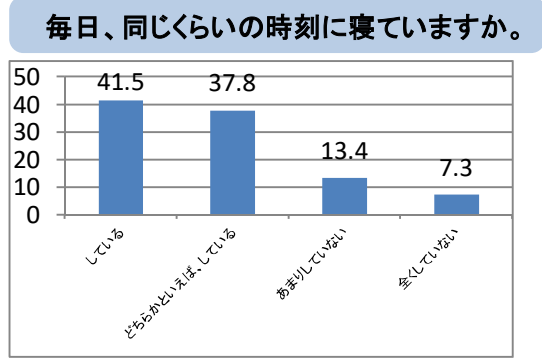
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

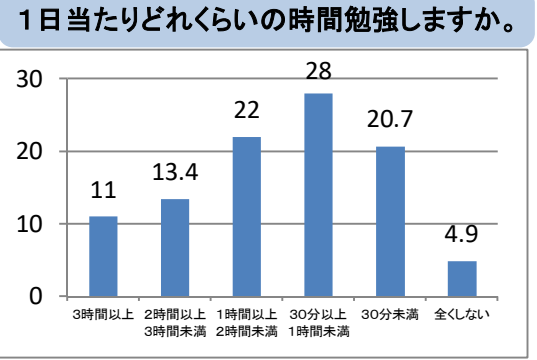
1 毎日朝食を食べる習慣を付けましょう。
 これからも、「早寝・早起き・朝ご飯」を実践しましょう。



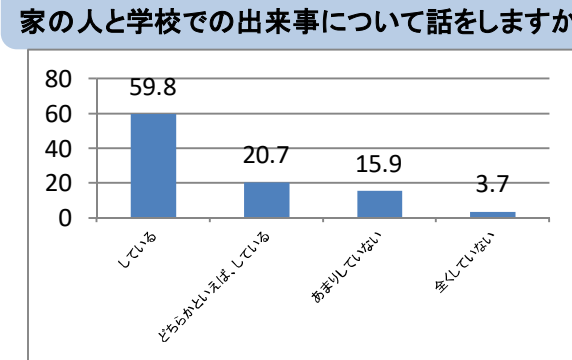
2 家庭でルールを決めましょう。
 規則正しい生活をしましょう。



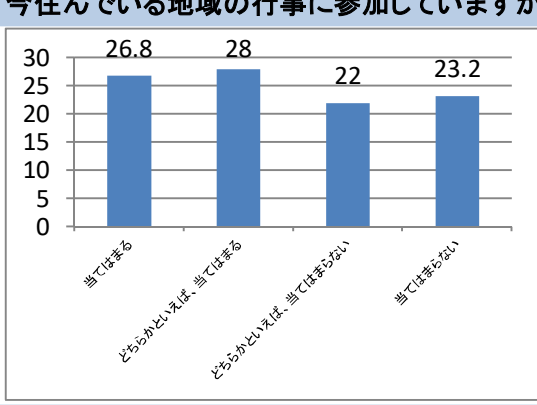
3 家庭学習の習慣を付けましょう。
 「学年×10分」を目安に、家庭での学習時間を決めましょう。



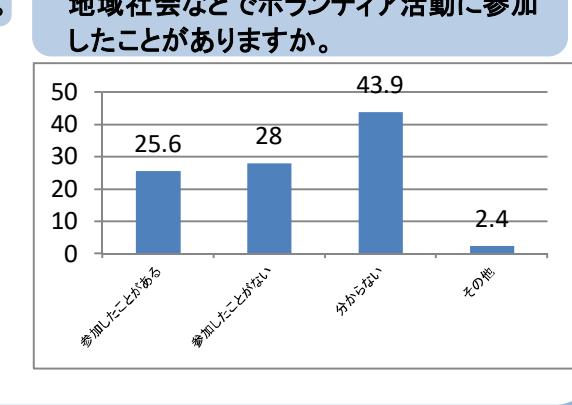
4 子どもとたくさん話しましょう。
 学校、地域での出来事について、話をする時間をできるだけ作りましょう。



5 地域の行事に進んで参加しましょう。
 地域の行事に参加して、地域の一員としての意識を育てましょう。



6 地域のボランティア活動に参加しましょう。
 ボランティア精神を持って活動できる子どもたちを育てていきましょう。





校庭の水槽に咲いた「河骨」の花